

Creator's NEWS

＝ みんなでつくる。創造、モノづくり。＝

AUTUMN



2024/Oct.
Free Magazine

レクリエーション

まが玉 づくり 体験!!



10月14日、県主催の『出張まなび講座』第3弾として「まが玉づくり体験」のレクリエーションを開催しました。

前回のハニワづくり同様、紀伊風土記の丘から講師の方に事業所へ来ていただき、「まが玉づくり」を体験しました。参加者のうち数名は、子どもの頃に紀伊風土記の丘でまが玉づくり体験を一度体験していました。昔の体験キットの石材は「青田石」という石材を使っていたらしいですが、子ども達が削るには硬く、制作を断念する子がチラホラといたようで、後に柔らかく加工がしやすい、「コンクリートや塀、地面に線が書ける「ロウ石」に変更されたそうです。

懐かしい話で盛り上がった後、各地で出土したまが玉の解説をしていただきました。子持まが玉とは、大型のまが玉の腹背や両側面に小型のまが玉をいくつも付着させた形をしたもので、祭祀等で使用したそうです。国内唯一出土した金製まが玉はなんと、和歌山市内の車駕之古墳（しゃがのこし）古墳で発掘されたそうです！

車駕之古墳古墳は木ノ本にある和歌山県内で最大規模の古墳で、事業所の場所からもさほど遠くない場所で見つかったことに大変驚きました。見せていただいた写真パネルは最大限拡大をして撮影されたもので、実物の大きさは小指の先ぐらいのかなり小さいサイズで、1.8cm程度だと教えて頂き、現在は市立博物館で展示されているとの事でした。

右が研磨前、左が研磨後のロウ石。最後に水に濡らしながら磨くと見違える程ツルツルのまが玉に仕上がりました。

そしてまが玉の知識を得たあと、いよいよまが玉づくりの開始です！目の粗さが違う3種類の紙やすりで順番に削っていきます。効率の良い削り方を教えてもらい、見本のまが玉を参考に1番目の粗い紙やすりで角張った石材をゴリゴリと削り、大体の角が取れ丸みのある好みのシルエットになったら、今度は2番目の粗い紙やすりで大きなキズを消していきます。この作業は仕上がりに大きく影響するのでみんな手を真っ白にしながらか、真剣な顔つきで作業を進めていました。

仕上げは3番目の耐水紙やすりで水をつけながら磨いていきます。水ですすぐまでどんな模様のまが玉になるのか分からないのでワクワクしながら磨き終え、まが玉をきれいにすると、それぞれ全く違う模様、違う形のまが玉が出来上がりました。自分の理想の形にするのは難しく、もし次の機会があるなら今度は違う形にも挑戦してみたいです。



紐を通して、まが玉の完成!!色や模様、形も三者三様の個性あふれるまが玉たちです。